

# 【先端バイオメディシン解析技術室シンポジウム】

## 最先端機器を使った疾患システムバイオロジー研究の最前線

### 開催概要

- 日時：2022年4月22日（金）16:00-18:00
- 会場（ハイブリッド開催）：  
【オンサイト】 京都大学医学研究科メディカルイノベーションセンター 1階セミナー室（定員25名）  
【オンライン】 Zoom配信
- 対象：製薬企業において探索研究部門や開発部門にご所属の方、アカデミア研究者
- シンポジウムキーワード：京都大学における創薬支援システム、臨床サンプルの単一細胞解析、FACS、scRNA-seq、CyTOF、Hyperion
- 参加費：無料
- 共催：京都大学 医学・生命科学支援機構、医学研究科 医学研究支援センター、医学研究科メディカルイノベーションセンター、医学研究科「医学領域」産学連携推進機構（KUMBL）、医学部附属病院 先端医療研究開発機構（iACT）、高等研究院 ヒト生物学高等研究拠点（ASHBi）

聴講登録はこちら>> <https://forms.gle/7cCC4NSNCAMSn6A7A>



登録〆切：2022年4月21日（木）

※ご登録者にZoomウェビナーのURLをメールでお知らせいたします。

※定員に達した場合、オンサイト参加希望であってもオンラインでのご視聴をご案内させて頂くこと、予めご了承ください。

※新型コロナウイルスの感染状況次第でオンライン開催のみとなるおそれがあること、予めご了承ください。

### シンポジウムプログラム

16:00 オープニング

16:05 京都大学における創薬支援システム  
～臨床サンプルを活用した探索研究から治験まで～

- ・KUMBLの紹介、創薬共創プログラムを含む創薬インフラシステムの全体像  
鈴木 忍 京都大学大学院医学研究科「医学領域」産学連携推進機構 特定教授
- ・iACTの紹介、前臨床段階での開発方針策定から治験までの一気通貫での支援体制  
伊藤 達也 京都大学医学部附属病院先端医療研究開発機構 医療開発部 医薬品・再生医療支援ユニット ユニット長／医学研究科 橋渡し研究推進学分野 講師
- ・クリニカルバイオリソースセンター（CBRC）の機能概要と特徴  
田澤 裕光 京都大学医学部附属病院クリニカルバイオリソースセンター 特任病院教授
- ・京都大学における創薬支援システム（の端っこ）～TR研究と早期臨床試験の現場から  
中島 貴子 京都大学医学部附属病院早期医療開発科（次世代医療・iPS細胞治療研究センター（Ki-CONNECT）） 教授

16:55 キーノートレクチャー  
Human Immunology 2.0（詳細は次頁ご参照）

上野 英樹 京都大学大学院医学研究科 免疫細胞生物学 教授／ヒト生物学高等研究拠点（ASHBi）主任研究者

17:55 クロージング

※内容・登壇者は予告なく変更する場合がございますので予めご了承ください。

【ウェブサイト】 <https://www.kumbl.med.kyoto-u.ac.jp/office/works/topics.php?i=70>

【本シンポジウムに関するお問い合わせ】 Email： [application@contracts.med.kyoto-u.ac.jp](mailto:application@contracts.med.kyoto-u.ac.jp)

# 【先端バイオメディシン解析技術室シンポジウム】 最先端機器を使った疾患システムバイオロジー研究の最前線

## キーノートレクチャー詳細



### 【講師】

#### 上野 英樹 先生

京都大学大学院医学研究科 免疫細胞生物学 教授

京都大学ヒト生物学高等研究拠点 (ASHBi) 主任研究者

## Human Immunology 2.0

### 【要旨】

ここ10年ほどで、免疫システムが依然想定されていたよりもはるかに多彩な病態、疾患に関与することが分かってきている。また、マウスモデルが病態解析や免疫応答の理解に重要な役割を果たしてきたが、ヒト臨床応用への限界が広く認知されるようになった。さらに、免疫細胞は血液中やリンパ組織だけではなく、臓器に非常に多く存在し、個々の臓器での免疫応答の制御、疾患に重要な役割を果たしていることも明らかになってきた。私の教室では健常人や患者から得た血液検体や組織検体を用いて、ヒト免疫細胞のシングルセルレベルの解析、さらにこれら免疫細胞の各疾患での変異と役割の解明に向けた研究を行っている。特に、ヒト臓器常在免疫細胞の病態関与機構の解明はさまざまな疾患での新規治療法開発に直結できるのではないかと期待している。講演では、教室での最先端機器を用いた多次元シングルセル解析研究内容とその成果の一部をご紹介します。

### 【略歴】

平成4年 京都大学医学部医学科卒業 小児科入局

平成13年 京都大学大学院 医学研究科 医学博士取得

平成13年 9月 米国、テキサス州ダラス、ベイラー免疫研究所 ポストドクトラルフェロー

平成16年 6月 同上 Assistant Investigator (助教相当)

平成16年 6月 同上 免疫モニタリングコア Director兼任

平成21年 6月 同上 Associate Investigator (准教授相当)

平成 23年 6月 同上 Full Investigator (教授相当)

平成29年 4月 米国、ニューヨーク州ニューヨーク、マウントサイナイ医科大学 Department of Microbiology 教授

及び Global Health and Emerging Pathogens Institute 教授

令和元年 7月 京都大学医学部医学科 免疫生物学 教授着任 (クロスアポイントメント)

令和3年 4月 クロスアポイントメント終了 京都大学医学部医学科 免疫生物学 教授 専任